

中学生が地本部長にインタビュー



和やかな雰囲気で行われたインタビュー



熱心に質問をする中学生に応える本部長

自衛隊静岡地方協力本部長・定免克己一等空佐は、2月6日（火）、本部庁舎（静岡市）において静岡大学教育学部附属静岡中学校（同市）の1年生二人からインタビューを受けた。

これは、同校が生徒たちの将来を見通したキャリア教育の一環として、生徒が興味のある職場を訪問し、さまざまな職種で働く大人に仕事へのこだわりややりがいなどを直接インタビューすることにより、自らの夢の実現や仕事に対する考え方を確立するための第一歩とすべく実施しているものである。

最初は緊張した面持ちの二人であったが、本部長のユーモアあふれる会話に気持ちもほぐれ、次第に笑顔も多くなり「自衛隊に入隊して良かったこと」や「全国で勤務してきた中で大変だったこと」など生徒が事前に研究して準備した質問を投げかけていた。

質問を受けた本部長は、これまでの勤務経験や自らが防衛大学校に入るまでに取り組んでいたことについて一つ一つ丁寧に答えると、生徒たちは真剣な面持ちでメモをとり、中学校での成果発表の資料を収集するとともに、自らが描く夢の実現に向け確かな一歩を踏み出していた。

静岡地本は、今後も学校が計画するキャリア教育などを積極的に支援して自衛隊への興味や関心を育て、学生の描く職業選択の一つとなれるよう活動を実施していく。

県内で今年最初の「新入隊員激励会」を焼津で開催



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、2月9日（金）、焼津市役所において、今年県内最初となる焼津市主催の「自衛隊新入隊員激励会」に協力した。

今年度自衛隊へ入隊する同市の若人6人の祝福と激励のため、市からは中野弘道市長、市議会議員、総務部長が出席。また、来賓として地元出身の県議会議員、自衛官募集相談員、航空自衛隊静浜基地司令・小袋長武一等空佐、静岡地本部長のほか、多数の自衛隊協力団体が参列した。

6人の入隊予定者は、小野寺防衛大臣からの激励メッセージ映像を真剣な面持ちで傾聴するとともに、定免本部長から「不安もあると思うが、上司や同僚を信じて頑張ってください」と激励の言葉を受けた。入隊予定者は「立派な自衛官になれるよう郷土の代表として頑張ります」など、それぞれが入隊後の目標と抱負を若々しく語った。

静岡地本は、これから県内各市町で行われる新入隊員激励会を積極的にサポートし、全員を無事全国の各教育隊に送り出せるよう努めていく。